

やまものがたり

一金生山再生計画

愛知産業大学通信教育部
造形学部建築学科

大石 啓明



1997年 岐阜県出身
2015年 岐阜県立大垣東高等学校 卒業
2021年 愛知産業大学
通信教育部 造形学部建築学科 卒業

現在 ハウスメーカー 勤務

【設計主旨】

岐阜県大垣市にある金生山は、2000年以上の間、鉱石の産地として掘削が行われてきました。この山の石灰は人々の暮らしを支える一方で、山の姿を大きく変えて削られてきました。そんな金生山も今後50年をめぐり石灰操業が終了すると言われており、ブラウンフィールドとなる山のその後が問題となっています。そこで、使い続けてきた山を日本の林業の問題解決に寄与しながら、サステナブルで本物の自然に戻す提案をします。

【推薦のこゝろ】

愛知産業大学 教授 藤枝秀樹 東海工業専門学校金山校(併修校) 講師 木下 太
この作品は、産業遺構の単なる保存に留まらず、時系列に自然再生までを示す事で新しい保存再生の建築手法を示している。
提案では、再生に至る時系列の中で、変わり行く建築や風景を、Phaseごとに体感できる空間を表現している。Phase1からPhase4に至る構成は壮大なスケール感を持ち、人・建築・自然の共生のあるべき姿とは何かを私たちに訴えかける。プログラムが連続的に変化する様が、一本のレールにより繋がり、彼の想いへと導いていく。やがて彼の想いは、建築空間として表現した後、長い年月をかけて建築空間から自由な空間に解き放たれ、緩やかに完結していく。その様はまるで建築の交響曲の様に感じられる。仮にこの建築が実現したとしたら、100年後どんな音を奏で、どんな風景を見せてくれるのだろうかと思いを馳せてしまう。そんな魅力を持つ作品である。

【作品データ】

建物用途 林業施設・産業記念館
敷地所在地 岐阜県大垣市赤坂町金生山

【制作データ】

作品総点数 模型4点 図面4枚
制作期間 構想 - 2か月
制作 - 8週間
主な模型材料 スタイロフォーム、
ヒノキ角棒、せっこう、
スチレンボード

